

「何もわからないんだよ」から「気づけば変わる」の実践

学校の隅にある小さな物置はオフィスと呼ばれ、そこに去年の5月から本を保管する書架が三架置かれています。これはフェリシモさんの助成金を受けてつくったもので全ての書架に本は収納されていませんが大切なものです。この書架に沢山の本を届けたのが去年5月の事。(ガーナ挨拶 No27)その後ガーナを離れる駐在員さんからフランス語の本をたくさんいただいたのと HIROYA 基金さんがよさこいにあわせてガーナを訪れた際に私一人では日本から運ぶことが出来なかったくさんの英語の本や日本語の絵本を村に運んだのが11月の終わりの事でした。5月にたくさん本を運んだ日はレンタカーで運びました。途中で検問に遭い段ボールとチャイナバックと呼ばれるナイロン袋に入ったくさんの本はポリスの目に留まり奪われてしまうのではないかと、一冊たりとも絶対にポリスなんかには渡したくない！子どもたちの未来をたくさん運ぶのだから..そんな思いでした、11月の時はそろばん教室の時に背負っていくバックパックに本をぎゅうぎゅうに詰めて運びました。肩や背中腰にまで重さがずっしりときて、その重さはこれから学んでいく知識の重さと考えました。有難いことに増えていく本、しかし本が増えることによって本の取り扱いの雑さが目立ちました。自習時間などに中学生クラスの生徒は校長先生から書架の鍵を借り、その中にある本を自由に読んでいます。家への持ち帰りは禁止で校内だけでの読書となります。その時にノートに名前を記載して本を読むというルールも作りました。読み終わったら整理整頓するという話もしましたが、この整理整頓はなかなか徹底されず、私が書架を開けた時に乱雑っぷりに(なんでわからないんだ！！)という悔しさと(なんで私が整理整頓しなきゃなんだ！！私がやったらダメなんだよ)と自問自答しつつ涙を流し整理整頓していました。そうした中、先日幼稚園クラスに絵本の読み聞かせをするのに書架を開けた時の事、とてもきれいに整理整頓されていて(さては校長先生が私に来るので慌てて整理整頓させたな。)と悪く勘ぐってしまいました。それはどうも違ったようで私に来るから整理整頓をさせたではなく、読み終わったら整理整頓を校長先生みずから指導していたのです。しかしそれは100パーセント完璧な整理整頓ではありません。本のタイトルが後ろに向いていたりしますが、校長先生が問題意識をするようになったと感じた時でした。本棚の整理整頓は日本の学校や児童館においても同じ悩みはある事かと思えます。だったらガーナじゃ無理なんだよ、何もわからないんだよの思いではなく、整理整頓されていると本が選びやすいという気づきの実践ははじまったばかりです。この実践を継続させながら三架ある書架いっぱい本を増やしていきたいと思えます。

ガーナ挨拶 No32 2020/02/20

國分 敏子

